
It was ...Next Door

たけひろ君

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

It was . . . Next Door

【Nコード】

N9471Z

【作者名】

たけひろ君

【あらすじ】

Next Door

それは異世界への扉

高雄ソウジはある日の夕方ふとしたことで魔道士と怪物の戦いに巻き込まれてしまう。

高校卒業までラスト4ヶ月の高雄ソウジの平和な日常から一歩踏み込んだ世界の裏へのNext Door。

これは日常から一歩踏み込んだ異世界への物語。

序章

Zero

いつもと同じ夕焼けに染まった空、人通りの少ない田舎道、北からの冷めた風。

昨日とも一昨日とももつと前とも変わらない筈の田舎道。

でも其処に在ったのは昨日とは違う「怪物」一昨日とも違う「刃」そして・・・もつと前とも違う「美人」。

其処が僕こと高雄ソウジにとつてのNext Doorだったのかも知れない。

First

その日の僕は放課後の幾時間かを除き全く以て普通だった。

登校から授業終了までの昨日とも一昨日とも変わらないサイクルを終え、遊ぶべく友人も皆無な僕は何時もの様に下校し・・・ようとした。

「高雄君、一寸良いかな？」

声をかけられたら断れないような魅惑のボイス、我が大谷西高校放送部部長のエースオブエースこと神無月コヨミ様にお声を掛けられてしまった。

「はい、別に僕は何時でも暇ですよ」

「なら良かった。一寸教えて欲しい事が有るんだけど」

そう言っただけ彼女は手近な椅子に座り、化学の問題集を取り出した。

「ここだね、フェノールを作るのが良く分からなくて・・・」

開いたページはベンゼンからフェノールを生成する反応・・・

の中でも最も重要なもの、クメン法のページ。

僕自身あまり有機化学は好きではないのだが神無月様のご所望と有らば仕方有るまい、全身全霊でクメン法を解説するのみだ。

「えっと、先ずですねベンゼンに・・・」

20分ほどで僕の説明は終わった、簡単にベンゼンからフェノールに至るまでの化学反応を説明しただけなのに、彼女は問題集の問題をすべて正解させた。

「やっぱり高雄君って人に物教えるの上手いよね、化学のハゲとは大違いだわ」

彼女の言う化学のハゲは僕をAO入試合格に導いた有り難い御方の一人なのだがボソボソ話す声と其の容姿の為生徒からは無論人気が無い。

壊滅的に無い。

彼女の言葉に、ハハ、と、取敢えず笑って置く。

其の後は何も無い、多分彼女は……今度の模試に向けて勉強する中でクメン法が分からなくなって化学の成績だけが良い僕に尋ねたと言うだけだろう。

Second

時刻は5時過ぎ、日は既に山に隠れ薄暗い。

こんな時期でも受験のために学校に残って勉強したりこれから塾に通ったりする奴は大変だなと思う。

この時期受験生がこんなに暢気な事を行っていられると言うのも、僕は9月に国立のAOを受けて合格したからだ。

それから一ヶ月は随分遊んだのだが二ヶ月もすればやりたい事もほぼ出来てしまう訳で今は絶望的なまでに暇だ。

やる事と言えば趣味の模型と読書それに今期のアニメを追いかける位で後はセンターに向けて勉強している。

「あと一週間で冬休みか……」

誰に言うまでもなく僕は呟いて自転車にまたがる、愛車のGIA NTのCROSS1はフレームに傷がつき泥除けは少し割れてしまっている。

それでも3年間乗った自転車だ、此れからも多分使い続けるだろう。

校門を抜けて、学校のある市街地を抜けて、軽トラック位しか通らない田舎道に出た。

大体3kmくらい続く、田んぼばかり目に付く道だが……今日は何かおかしい気がする、妙な違和感を感じる。

ペダルを漕ぐ速度を落とし、周りを見渡し違和感の正体を探る。

「ああ、そういうことか……」

違和感の正体が掴めた。

Third

感じた妙な違和感の正体は、全くと言っていいほど生き物の気配がしない、いや生き物が全く居ないように感じる事だった。

鳥やら雀やら猫やらの小動物の存在なんて何時もは余り意識しない事だ、しかし今はそれが酷く気に掛かる。

『引き返そうか』

一瞬そう考えた、しかし鳥やら雀やら猫やらが見当たらないだけで遠回りするのは馬鹿らしい。

僕は違和感を無視して、ペダルを漕ぐ速度を速めた。

続く

序章（後書き）

今まで僕はいろんなつまらないものを書いてきたと思う。

それは東方の二次創作だったり、ガンアクションだったり、魔法少女ものだったり。

今回もつまらないものになってしまいかもしれない。

今回は変に設定やら世界観にこだわることをせず、自分の身の回りにある世界を少しいじっただけにして、主人公も自分に近い人間にしようと思う。

今回は・・・今回はかりは何か完結へと持っていきたい。

余り長くはならないと思うので是非お付き合いください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9471z/>

It wasNext Door

2011年12月29日17時53分発行